

記者配布資料

平成 25 年(2013 年)7 月 19 日

所属名	所属長名	部局長名	担当者職・氏名	連絡先
山口県立大学	学 長 えさと けんすけ 江里 健輔	国際文化学 研究科長 すずき たかやす 鈴木 隆泰	国際文化学研究科 教授 みずたに ゆみこ 水谷 由美子	083-928-2550
発表内容の 関係地域	[全県]、岩国、柳井、周南、[山口]、防府、宇部、山陽小野田、下関、長門、 萩、首都圏			

1 件 名

商店街の魅力を発見するから創造するへ — 山口の街の記憶が再生された空間で語ろう —
(山口県立大学大学院国際文化学研究科「文化コーディネート論」公開授業)

2 趣 旨

山口市中心商店街の歴史的記憶の空間である、江戸時代後期町屋建築「旧長州藩本陣梅田邸」を活用した店舗を会場として、標記シンポジウムを開催します。

シンポジウムでは、パネラーによる地域創造の実践事例紹介や、大学院生による山口市中心商店街活性化企画の提案の後に、地域の皆様と一緒に、商店街の魅力を発見しながら、まちの創造について語り合います。

併せて、地域資源を活かした服飾作品も展示します。

3 日 時

平成 25 年 7 月 22 日 (月) 18 : 00 開場・18:30 開演 (展示 : 18:00~20:30)

4 場 所

瑞穂茶寮 (旧梅田邸)

〒753-0086 山口市中市町 3-6 ※別添チラシ案内図

5 登壇者

パネラー 西崎 博史 (周南市文化会館館長)

白鳥 文明 (KK瀬戸内ジャムズガーデン役員UI ターンサポートクラブ『しまくらす』顧問)

高田 昌幸 (地域づくりデザイナー)

三上 清仁 (なかた美術館ディレクター)

国際文化学研究科 文化コーディネート論 受講生

コーディネーター 水谷 由美子 (国際文化学研究科教授)

6 問合先

国際文化学研究科 教授 水谷由美子

083-928-2550

myumiko@yamaguchi-pu.ac.jp



シンポジウム

◆日時：二〇一三年七月二十二日(月)

開場 十八時 開演 十八時半
(展示 十八時～二十時半)

◆入場無料

◆場所：瑞穂茶寮

(旧長州藩本陣梅田邸、江戸時代後期町屋建築)
山口県山口市中市町三一六中市商店街

◆パネラー

- 西崎博史(周南市文化会館館長)
- 白鳥文明(三瀬戸内ジャムズガーデン役員
〔二ターンスポーツクラブ『しまくらす』顧問〕)
- 高田昌幸(地域づくりデザイナー)
- 三上清仁(なかつ美術館ディレクター)
- 文化コーディネーター論受講生

◆コーディネーター

水谷由美子(山口県立大学大学院 国際文化学専攻教授
文化コーディネーター論担当)

二〇一三年度

第四回山口国際文化学研究会

商店街の魅力を見つめ、
山口の街の記憶が再生された空間で語り合う

主催：山口県立大学大学院 国際文化学専攻
文化コーディネーター論公開授業

協力：瑞穂茶寮

商店街の魅力を発見するから創造するへ
— 山口の街の記憶が再生された空間で語り合おう —

- ◆日時 2013年7月22日(月) 開場 18:00 開演 18:30
- ◆場所 瑞穂茶寮 (旧長州藩本陣梅田邸、江戸時代後期町屋建築) ◆ 入場無料
山口県山口市中市町3-6 TEL: 083-929-3939

文化コーディネート論では教室で地域のオピニオンリーダーや地域創造の実践者である講師に生活・芸術文化を通じた地域活性化の事例を学んでいる。その内容に触発されて導き出されたテーマについて、院生がグループでリサーチし、企画を立てて実践することで、地域活性化の仕組みや方法について理解することを目指している。創作研究分野の学生は、地域資源を活かす研究創作を実践する。

山口中心商店街の歴史的記憶の空間である旧長州藩本陣・梅田邸が、現代の店舗に甦った。この江戸時代後期の町屋建築に皆様をお招きし、商店街の魅力を発見して頂くとともに、そこからまちの創造について参加者のみなさんで活発に語り合っておくことを願っています。皆様お誘い合わせの上、ご参加下さい。

◆ シンポジウム

◆ 1 出会いの場づくり

西崎 博史 (周南市文化会館館長)

周南市文化会館は昨年11月で開館30周年、入館者は800万人。一貫して日常の暮らしの中に文化を根付かせる活動を続けてきた。原点はアウトリーチ(手を差し伸べる活動)。音楽や演劇、舞踊などとの出会いの場をいかに作っていくか。実践が次の実践を生み、劇場の独自色を打ち出してきた。地域固有の文化はどのように創り出されるのか。目指すはエンターテインメントの世界。その取り組みを紹介。

◆ 2 瀬戸内ジャムズガーデンの挑戦

白鳥 文明

(KK瀬戸内ジャムズガーデン役員UIターンサポートクラブ『しまくらす』顧問)

周防大島に起業した「瀬戸内ジャムズガーデン」について、起業の動機、起業までの行程、現状そしてジャムズガーデンを中心とした大島町のUIターン者支援活動と今後の課題等について述べる。瀬戸内ジャムズガーデンの創業は、名古屋の電力会社に勤務していたサラリーマンが、新婚旅行の旅先バリのジャム屋で偶然出会ったヨーロッパの創作的ジャム(コンフィチュール)を知ったことに起因する。以後10年間計画の下、町の農家や優れたスタッフによって、その夢を叶えつつある。

◆ 3 消費されすぎた地域芸術

三上 清仁 (なかた美術館ディレクター)

観光地、商業地として独特な発展を遂げた尾道。少子高齢化もなんのその。街づくり活動が盛んで、多くの人々から注目をあびている。さて、尾道の何を見る? 風光明媚な街並み、しまなみ、いつか見た映画の風景、アニメの中の背景、ごんごんと文学、近代絵画、現代アート、などなど。観光と芸術はいつの間にかに表裏一体。街の中で芸術を感じることを消費することが同価値。そのような地域デザインのおかげで地域芸術は、プレーヤー不在のドーナツ化が起きているようだ。

◆ 4 持続的な「地域のしくみ」を育てるということ

高田 昌幸 (地域づくりデザイナー)

「家族や地域の仲間がともに健康であって、今日も明日も安心して楽しく暮らせること」私たちが本当に欲しいものが、他と競争して得られるのではなく、上のような「豊かさ」であるならば、これは実現が可能だ。地域社会の役割(地域のしくみ)を再生し、あるいは新たに育てることで、人びとは「豊かさ」を手に入れることができる。アフリカで取り組んだプロジェクトを事例に、豊かな暮らしを実現する地域づくりのポイントを紹介する。

◆ 5 日中交流の生け花で華やかな商店街を楽しもう

岡村 理恵 孫 凱 歩 亦飛 (大学院 国際文化学研究科 1年)

私たちは、山口市の商店街の活性化につながる取組に着目し、メンバーに中国からの留学生が二人いることから、日中文化交流をキーワードに、中国京劇キャラクターと花を活用した企画を立案してみた。

具体的には、商店街の9店舗と華道家元池坊山口西京支部の協力を得て、華やかな生け花と中国京劇のかわいいカードとを展示し、一人でも多くの人に華やかな商店街を楽しんでもらうことで、集客と賑わいの創出につなげようとするものである。

◆ 6 山口商店街の特色店を活かした若者及び

外国人観光客をひきつけるプロジェクト

岡本 勝利 王 晶晶 張 超超 (大学院 国際文化学研究科 1年)

現在の日本では少子高齢化、人口減少、都市中心商店街の衰退、空き店舗の増加など全国の地方都市が抱える問題は山口市にも存在する。近年、山口商店街もだんだん衰退している。この状況を解決するために、特色店及び商店街にキャラクターの創造を促し、若者及び外国人観光客をひきつけるプロジェクトを企画する。

◆ 7 徳地を着る

水津 初美 武永 佳奈 (大学院 国際文化学研究科 2年)

徳地の手透き職人である千々松哲也(千々松和紙工房)制作の十文字漉き徳地和紙を使用した帽子や袴パンツなどの服飾商品を展示し、山口の地域資源である和紙の可能性を提案する。

◆ お問い合わせ

山口県立大学大学院国際文化学研究科 担当: 水谷 由美子

〒753-8502 山口市桜島 3-2-1

TEL & FAX : 083-928-2550

E-mail : myumiko@yamaguchi-pu.ac.jp

